

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	グループホーム ございしょの里		
所在地	岩手県釜石市鶴住居町第23地割21番地1 (電 話) 0193-28-1300		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	12月17日

【情報提供票より】(19 年 9 月 25 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 11 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	11.3 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨耐火建築物		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	58,400 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 230 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(10月 19日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	11 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81.8 歳	最低 74 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	はまと神経内科クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR鶴住居駅から徒歩で約10分、海水浴場として有名な根浜海岸から近い距離にあり、また民家も周囲に多くあり地域との交流にも恵まれた環境にある。基本理念としては、『太陽の如く』を表題にし『あかるく、あたたかく、まるく』という運営に向けて取り組まれている。また基本方針には利用者の心身機能の維持回復と社会復帰の可能性を求めている。職員は基本理念のもとにサービスの資質の向上に当たり、地域や他の機関や団体との連携を大事にされることなどが目指されている。管理者や職員、利用者とも明るくホーム内は明るい雰囲気にも力を入れられADL、IADLの維持改善に努力されている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、運営方針、入退居、職員の採用については、職員の意見を反映されていないなど11項目が改善課題として指摘されていた。金銭管理については毎月報告している。共用空間にも一人で過ごせる場も作られているなど改善に向けて努力していた。1号棟と2号棟では食事のとり方、入浴の援助の仕方などに違いが見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	職員全員で自己評価に取り組んでいる。家庭の延長としての生活に向けた支援になっているか、このような支援でよいのか、というふうに項目ごとに話し合われている。評価のための評価という捉え方ではなく、サービスの質を良くするという前提で行われている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、6月、7月、9月、11月(予定)に、開かれている。出席者も、町内会長、民生委員、消防団・商店会長、利用者、利用者家族代表、警察、行政と地域を代表される人たちが構成されており、介護保険制度、事業所の利用状況、地域行事、防災訓練への協力体制などについて協議されている。地域の消防関係者はグループホームを夜廻りしてくれている。更に地域へ情報を提供し協力を得るようにすることが大切かと思われる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	遠くに在住されている家族もお礼連絡などに苦慮されている。家族には毎月金銭出納簿を送って、確認印をもらったり、利用者の状況を知らせている(家族のアンケートでも確認)。広報の発行などにより、グループホームの支援の様子や利用者の暮らしの様子を知らせ、情報交換されることを期待する。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の自治会に加入し回覧板を廻してもらったり、地域との交流に努力されている。中学校や保育園、地域とは運動会や学芸会への参加を通して交流が行われている。地元の祭典には踊りが来て利用者を楽しませてくれている。町内の運動会に参加している写真からも楽しさが感じられた。行事の実施状況、ボランティアの受け入れ記録など更には広報などの配布について検討されることを期待する。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

☐ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	《太陽の如く》をかがげ、あかるく、あたたかく、まるくを基本理念とし、また利用者の人権、人格の尊重、心身機能の維持回復と社会復帰の可能性を求めて支援すること、職員は基本理念の下、常に資質の向上に努めることを基本方針として取り組まれている。管理者、従業員、利用者とも明るく振舞っており、気の休まる思いがした。釜石音頭を歌ってくれるなど、踊りも好きで楽しんでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を目指し利用者皆がまるく、明るく、暖かいホームづくりに取り組まれている。職員は利用者の意見を良く聞いてそれに沿うような支援に当たりたいと話していた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの近くにある中学校の運動会に行ったり掃除をしてもらいなどの交流が行われている。地元で行われる敬老会にも参加している。祭り時には、踊りがホームにやって来て利用者を楽しませている。火の用心のための夜回りもしてくれるなど、様々な地域交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行っている。評価を実施する意義を理解しサービスの向上に役立てて欲しい。評価を通してサービスの質を反省し次からの介護に活かすことである。		職員や利用者の会話をそのまま記録することにより、適切な声掛けがなされているか等利用者の状況が具体的に増えてくると思われる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されている。出席者の顔ぶれも地域を代表するような方々である。グループホームの状況を知らせたり、行事の報告や今後の進め方について話し合われている。鮭の遡上見学やりんご狩り、商店街の福引などや、外出先についても話し合われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の入居について、市の福祉課とも連携は取られているようであるが、その記録等はなく確認は出来なかった。プライバシーの保護のこともあり写真を載せた広報は届けられていない。	○	市町村との情報提供記録を残すことや、可能な限り広報等を届けるなどして市町村との連携をより深められることを望む。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は原則としては、毎月1回お便りで、暮らしぶり等について連絡されている。金銭出納簿は毎月郵送し、確認印を貰っている。体調を悪くされた時は、電話でお伝えしている。広報を通しての情報提供を実現させて欲しい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱も用意されており、相談苦情窓口も設置し、意見が聞ける体制になっている。家族会も作られているが、相談はほとんどない。	○	家庭への情報提供を多く行い、グループホームへの関心と理解を高めることが重要である。これまで以上にご家族の意見・要望の収集に向けての働きかけを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動といってもユニット間の動きなので、顔なじみになっており、利用者にダメージを与えることは殆どない。様々な事業所職員が、毎日のように利用者と接触をしているので顔馴染みになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市やグループホーム協会で企画されている研修会には参加しており、不参加者には復命書を回覧し、サービスの向上に努めている。	○	年間研修計画の策定がなされていないので、個々の職員のレベルにあった研修が受けられるよう、年度計画において、職員の育成が図られる取り組み等に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との交流や沿岸ブロック協会の研修会には参加し、情報交換をしたり、勉強会を行ったりしてサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントシートを参考にしながら、本人の支援にあたり、一定期間(10日間くらい)体験して貰い、グループホームの雰囲気に慣れ頂くという方法を取り入れるなどして、スムーズに馴染んでもらえる手立てを講じている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、料理の味付け、野菜の切り方、魚のさばき方、花作り、礼儀作法など、様々なことを教えられる関係性を築き、共に暮らせる関係を考えている。利用者は教えることを喜び、生きがいに感じている。1・2号棟での支援に若干ちがいがみられるが、介護度を考慮されてのことと受け止めた。		日常生活の延長線上にある調理や洗濯、掃除をみんなでやった上で機能訓練に力を入れていくことも大切かと思われる。個人的な支援をよく考慮して欲しい。記録はどの分野でもとる事が大切である。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寂しくなり、利用者間で寝具を持って泊まりに行くこともある。職員からの働きかけや、意向を聞き出すようなことをされているところまでは把握出来なかった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向に沿って、介護計画が立てられている。問題や意見が出たときには、家族や利用者や話し合われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は介護計画の見直しが行われている。利用者の現状が変われば、それに合わせた見直しが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が居室に宿泊出来ることを説明している。また鍼灸師の資格がある職員により希望があるときには応じている。	○	希望やそれに対応した記録をとっておく必要があると思われるので、今後は記録物等の充実に期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、かかりつけの医師と連絡を取り、受診の支援が行われている。家族が付き添っていく場合には、バイタルチェックや日常の生活記録を携帯して貰っている。	○	説明を受けて確認したことであるので、今後は介護計画書などに記録しておくことが大切である。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応については、当該グループホームとしてはやれないことを家族に説明している。	○	重度化や終末期に向けた対応については、家族等には説明されている。しかし、家族等と、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から良く話し合っておくことが最も大切なことである。また、かかりつけ医と家族の関係づくりも支援しておくことが重要である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全体的に職員からの働きかけや、声掛けは少ないように感じられた。社長の人柄や性格に支えられた明るいグループホームで、体操や、懐かしい歌を唄うこと等に力を入れている。	○	接遇やプライバシー、また個人情報に関する関係法規や事例などの研修が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向やペースに従って、買い物に行ったり、外を散歩したりといった暮らしになるような支援がなされている。利用者の家が見たいとの要望を受けて、見に行き、喜ばれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2号棟は、介護度の関係か、利用者が調理や食後の片付けに参加していなかった。職員が食べ終わった順に片付けており、家庭的雰囲気が薄く、寂しい感じがした。1号棟は食事の準備や片付け方に参加している。	○	家庭的な雰囲気を取り入れた食事時間にするため、野菜を切ったり、味付けをしたり、テーブルを拭いたりといった役割を持って貰うなど、団らんしながら楽しく食べるといったような工夫をすることも必要と思われる。職員は利用者と共に準備し、片付けるといった食事にと家庭的な雰囲気が出て、楽しさがわくと思われる。今後の支援の工夫に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2号棟の記録では3日に1回の入浴で、1号棟では希望によって入浴されている。利用者の希望で、夜間の入浴が怖いので、日中に入浴したいとの要望に対応しているが、入浴を楽しめる支援の工夫が欲しいと感じられた。入浴の判断基準はつくられており掲示されていた。	○	清潔を保持するという重要性から、3日ごとの入浴については、頻度等を検討して欲しい。入浴状況のチェック表に記入されている現状などを踏まえて、今後の取り組みに期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者で、以前病院に勤めていたことにより、自分はグループホームに勤めていると思っている方がおり、給料が出ないと話している時もあるが、良く手伝いや他の利用者の面倒も見てくれている。自分の役割と考えている事など大切に考えて支援して欲しい。	○	食事の時の役割や、掃除の時の役割、またレクリエーションの時の係分担など様々な役割や、楽しみ事が記録されていると、それらについての取り組みの状況が見えてくる。記録の仕方は多種多様にあると思われるので、工夫して欲しい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	皆で過ごす時間があったり、個人で過ごす時間があったりすることは、一日の中においては誰にでもある。散歩したり、買い物に行ったりということもあるということの聞き取りは出来た。毎日の取り組みの様子が記録されていれば、支援の様子のことがもっと見えてきたと思われる。	○	利用者がどのように生活しているかを記録することを望みたい。それを皆で、共有し、支援のあり方を考えられると、更によりよいケアに向いていくと思われる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りを重視し、鍵をかけないことを基本にしている。日中はチャイムで対応し、夜間は、20時から朝の6時30分まで施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けながら、避難訓練を、春と秋の2回実施している。地域の人たちにも避難訓練についての協力を呼びかけている。	○	地域密着型事業所として、避難訓練には地域の人たちの協力(参加)を得られるようにすることが大事である。運営推進会議の議題にするなどして、呼びかけを続けて欲しい。様々な取り組み等を文書化しておくことが重要である。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	市の栄養士に頼んで、献立の指導を受けている。水分の摂取量、食事量、歯磨き、洗面、排便などの記入表が貼られ記入されている。		記録表等を、作成すると、職員が共有しやすくなり支援に役立てやすくなると思われる。取り組みを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の間もあり、冬期間は、こたつも使用される。ソファも適当に置かれ、自由に利用している。手すりや段差に問題はなく、安全には配慮している。時計、カレンダーも置かれているほか、テレビや、カラオケも用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真が貼られている。位牌を持ってきている方が2名、ダンスも2名ほど持ってきている方がいる。馴染みのものの持ち込が少なかった感じがした。衣装類の入れ物用に、ビニールケースが多く見られた。	○	居室は、家で、普段、使われたものが置かれている自室に似た造りにされると気持ちが休まると思われる。家族や利用者と、よく相談し、居心地の良い部屋づくりへの支援をしていって欲しい。